



JSQC ニュース

No.335

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス イブニング・アカデミー開講
- 2-私の提言 コミュニケーションの大切さ
- 2-ルポルターージュ 第120回関西講演会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第373回事業所見学会ルポ/5月の入会者紹介/行事案内
- 4-行事案内/会費請求/事務局からのお知らせ/総会告知

イブニング・アカデミー開講

庶務委員会 委員長 兼子 毅

日本品質管理学会会員の典型的な会員像

昨今、多くの学会で会員数減少が問題となっている。団塊世代会員の退職退会、少子化のため若い入会者が減ってきているなど、日本が抱える構造的な問題もちろん大きな原因であろう。しかしながら、学会自体の努力で減少を食い止めるだけでなく、会員を増やしていくことができないだろうか。このような問題意識のもと、過去10年間の入退会者の分析を行ってみた。するといくつかの興味深い事実が明らかとなってきた。正会員の入会時年齢は平均46.7歳で、50歳代前半をピークとする一山分布、在籍期間は平均10.6年のきれいな指数分布となった。40歳代後半から50歳代前半、例えば品質管理部長などへの就任と同時に入会し、異動、退職などで退会、という平均的な会員像を描くことができる。学会全体で見ると、毎年1割の会員が入れ替わる。

30歳代入会者の特徴

入会時年齢で層別して分析したところ、30歳代の入会者だけに特徴的な傾向があることがわかった。全会員の約15%を占める30歳代入会者の在籍期間分布を調べてみると、半数は他の世代と同様の指数分布、半数は25年~30年をピークとする正規分布が混合しているのである。つまり、30歳代で入会した会員の半数は異動などに伴い退会するが、残り半数は退職まで会員を続けていただいている。私達はこの現象を、

「自らの立ち位置、プロフェッショナルとしてのあり方がほぼ明らかになってくる30歳代という時期に学会活動にコミットするようになると、退職するまで、言い換えるとその人が職業人として在り続けている間、学会というコミュニティへの帰属意識を持ち続ける」と解釈できるのではないかと考えた。品質管理のプロフェッショナルたちのコミュニティである日本品質管理学会にとって、このような会員を積極的に増やしていくことが今後の品質管理の発展に極めて重要である。翻って、学会の各種行事や出版物などを眺めてみると、そのような人たちのニーズに応えるものが極めて貧弱ではないか、と思い当たったのである。

イブニング・アカデミー

このような議論の中から、「イブニング・アカデミー」のアイデアが生まれてきた。この新しい試みは、初めて品質管理担当・推進担当となった30歳代の実務者を対象としている勉強会であり、サロンである。

市中には多くのセミナーが開かれているが、この「イブニング・アカデミー」はそれらとは一線を画すものにした。専門用語や公式を覚えて計算ができるようになるだけではなく、それらの背後にある思想や哲学、少し難しいかもしれないが理論的な背景まで、きちんと伝えたい。比較的少数のゼミナール形式で、納得の行くまで質問しながら、骨太なエッセンスや全体像

を獲得してもらいたい。参加者同士が事例を持ち寄り、講師とともに皆で考えながら理解を深め、すぐに実務で役に立つような実践的な中身としたい。講師からの一方通行の講義だけではなく、受講者も含めた双方向の交流を通じて、品質管理のプロフェッショナルの有機的なネットワークの核になってほしい。

理事を中心にこの提案をしたところ、多くの方からご賛同いただいた。実は、在京の大学・研究機関に所属する先生方からは既に10テーマ以上集まっていて、そのどれもが、大変興味深く面白そうなテーマだった。とはいえ、いくつかの懸念もある。そもそも30歳代の若手の人たちに、そのような勉強会やコミュニティに参加して自分の専門性を高めたいというニーズが有るのだろうか。本人にニーズはあるかも知れないが、上司や会社が参加を認めてくれるだろうか。休暇扱いにして自腹で参加するとしても、それだけの時間を作る余裕が有るのだろうか。理事たちの結論は単純だった。まずは始めてみよう。うまく行かなければやめればいい。多くの会員が参加していただけるなら、テーマを増やしていこう。まずは東京で始めてみるが、手応えを感じたら、支部でも同じような企画を検討してもらおう。

「イブニング・アカデミー」は新しい試みであり、参加者とともに作り上げていきたいと考えている。是非積極的にご参加いただきたい。

● 私の提言 ●

コミュニケーションの大切さ

KYB株式会社 佐藤 直人



昨今の生活環境や企業環境において、どうしても気になることがあります。それは様々な不祥事や事件が大変多いことです。これは家庭や学校、企業職場内におけるコミュニケーションが不足しているように思えて仕方ありませんが、皆さんはいかがでしょう？

コミュニケーションの中には、人の話を「きく」大切さがあります。それは、ただ話を耳だけで「聞く」のではなく、目と心でも「聴く」ことが重要だと言われています。話を「聞く」ことは単なる表面的な意味や事実だけを

聞く程度のことで、相手の話していることを理解したとは言えません。

一方、「聴く」ことは相手の言葉の背景にあるものや話しているときの表情、そのときの調子などにも注意して聴くことです。人に話を聴いてもらうことは、自分自身が話す相手に何を伝えようとしているか、今の気持ちをどう整理して話をするかなど、聴くことと同様に「話す」ことも重要になるので、相手に理解してもらえる話し方を心がけたいものです。企業がコミュニケーションの重要性について説いているのはこんなところではないでしょうか。

また、これまで自分が歩んできた人生の中で見たり、聞いたり、経験してきたことや得てきた知識などが善悪や

良否の判断に大きく影響していることは間違いのないと思います。同じものを見ても、人によって判断される意見や思いは当然違ってきますが、集団で生活・行動する上では家庭や学校、職場内での情報共有や相手を意識したコミュニケーションの取り方が大変重要な意味を持つと思います。

では、集団生活の中で一番大切なコミュニケーションの取り方は、やはり挨拶ではないでしょうか。私は家庭ではもちろん、職場でも自分から挨拶をするように心がけていますが、挨拶しても返事がもらえなかったりすると、何となく憂鬱な気分になるのは私だけでしょうか。

相手の言おうとしていることを真に理解しようと耳を傾けることができる人こそコミュニケーションの取り方がうまい人だと私は思っています。家庭や学校、職場でのコミュニケーションをよくすることで、少しでも不祥事や事件をなくしたいものです。相手の話に耳を傾け、自らも挨拶しましょう。

第120回関西
講演会
ルポグローバル市場での
人材育成と
品質保証実践例

6月13日(金)、中央電気倶楽部において関西支部主催の第120回講演会が開催され、80名の参加者が標題のテーマについて熱心に聴講した。

1つ目の講演は、シャープ(株)CS・環境推進本部CS・環境管理部係長 岡崎哲卓氏から「シャープにおけるグローバル人“財”育成」と題して、品質とサービスを車の両輪とした顧客満足(CS)向上の取り組み紹介があった。グローバルな品質人材の養成に向けeラーニングの活用により日本語教材を英語等の他言語に展開し、その一方で、サービスについても実践での研修を中心に、海外でも「おもてなし」の理解を含めたマインド醸成を進めている。この様に品質とサービスのバランスが取れた取り組みにより、グローバルな活動においても、CSの評価が向上することが示された。

2つ目の講演は、本田技研工業(株)二輪事業本部二輪品質保証部部长 向井正人氏から「グローバル化における品質保証と人材育成のあり方～Honda二輪車での事例紹介～」と題して、「技術・品質・スピード・人材育成」の「4つの拘り」について、本田宗一郎氏自身の言葉に基づき解説をいただいた。創業者が自ら語る言葉の重みに加え、社内でしっかりとその意味を伝承していくことにより、ホンダフィロソフィーがグローバルに継承されている状況が実感できるお話であった。また、「120%の品質」という言葉の意味の参加者への投げかけは、品質は通常で考える「100%」ではなく、お客様をどこまでも理解し、更に想像を超えて期待に応える「120%」というひとつの解釈を示した印象深い問いかけであった。

いずれの講演も、グローバル化が進展し、現地化を進めていく中で、言語や文化の壁を超えて、「技術」のみならず「心」を伝えることの重要性を実例により示された大変貴重で、今後の品質人材育成にとって意義あるお話であった。

滝本 昭彦(関西電力(株))

第373回 事業所見学会 ルポ

小澤酒造の品質経営

去る平成26年6月26日(水)に、第373回事業所見学会が開催され18名が参加された。訪問先の小澤酒造(株)は元禄15年(1702年)を創業とする由緒ある酒造会社である。また酒造りにとどまらず隣接する多摩川の清流を眺めながらお酒や軽食を味わえる庭園の開設や酒蔵見学、きき酒処の運営などお酒を様々な形で楽しめる取り組みを多角的に事業化している。

当日は小澤社長よりご講演いただき会社の歴史から品質経営、従業員の人間性を尊重した経営方針など長期持続企業としての秘訣を惜しげもなくご披露いただいた。特に昭和50年代から始まった地酒ブームの勃興と物流の発展による地方酒造メーカーの進出、東京の地の利を活かした戦略などについて詳しくお話いただき、参加者はその経営姿勢やマネジメント手法について興味深く聞き入っていた。

ご講演のあとも引き続き社長自らのご案内により酒

蔵の見学をさせていただいた。はじめに創業年に建造された元禄蔵の説明があり、その重厚な造りと歴史ある雰囲気に参加者一同圧巻の思いを受けていた。蔵の中にある複数の貯蔵タンクは番号で厳重に管理されており、内容物はすべて課税対象であるため非常に気を遣われているとのことであった。

続いてお酒と酒粕に分ける工程について説明され、使用されるお米の種類と精米されてできる糠の用途を紹介いただいた。そして明治時代に建てられた明治蔵、熟成酒の貯蔵棚を見学したあと、仕込み水が湧いている井戸を拝見した。

一通り見学した後、小澤酒造にて造られた日本酒の試飲となった。質疑応答において参加者はほろ酔い気分になりながらも積極的な質問が飛び交い、予定時間を超える活発な議論がなされた。

今回は身近な嗜好品であるお酒について普段は知ることができないご苦労や経営哲学について学ぶことができる有意義な見学会となった。最後に、ご多忙なか終始ご対応いただいた小澤社長はじめ従業員の皆様へ深く感謝を申し上げます。

澤田 雄一 (筑波大学)

2014年5月の 入会者紹介

2014年5月22日の理事会において、下記の通り正会員17名、準会員3名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

(正会員17名) ○鈴木 啓介 (川崎重工業) ○田畑 耕治 (東京理科大学) ○溝端 雅浩 (TIS) ○大山 瞳・大山 雅樹・三本松 まゆみ (日立製作所 ひたちなか総合病院) ○小原 光雅 (積水化学工業) ○稲葉 緑 (JR東日本研究開発センター) ○藤原 純友 (ユニ・システム) ○酒井 和憲 (アドヴィックス) ○末岡 徹 (大成建設) ○元嶋 大 (パナソニック デバイスエンジニアリング) ○北嶋 間衛 (タムラ製作所) ○山本 雅樹 ○井上 秀一 (湯山製作所) ○杉村 彰則 (ピ

ューローベリタスジャパン) ○猪俣 考史 (凸版印刷)

(準会員3名) ○飯島 真大 (明治大学) ○高橋 寛・田代 陽輝 (中央大学)

(賛助会員1社1口) ○デジタルハーツ

正会員：2229名

準会員：68名

職域会員：21名

賛助会員：158社207口

公共会員：20口

行 事 案 内

●第121回講演会 (本部)

テーマ：これからの品質とTQM

日 時：2014年9月19日(金)13:00~16:20

会 場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部
1号館3階講堂

講演者：狩野紀昭氏 (東京理科大学)

参加費：会 員4,320円 (締切後4,860円)

非会員8,640円 (締切後9,720円)

準会員2,160円 一般学生3,240円

※当日払いは別金額となります。

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●第44回年次大会・東京都市大学 (本部)

日 時：2014年11月28日(金)29日(土)

28日(金)午後 事業所見学会

日産自動車 追浜工場

29日(土)9:30~11:00

通常総会/各賞授与式/

会長挨拶

11:10~11:40 新会長講演

大久保尚武氏

(積水化学工業)

12:40~17:30 研究発表会・

ポスターセッション

18:00~20:00 年次大会懇親会

参加費：（研究発表会の当日払いは別金額）

見学会（28日）

会 員3,000円 非会員4,500円

準会員2,000円 一般学生2,500円

研究発表会

会 員4,320円（締切後4,860円）

非会員8,640円（締切後9,720円）

準会員2,160円 一般学生3,240円

懇親会

会 員・非会員 4,500円

準会員・一般学生2,500円

申込締切：2014年11月19日(水)

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

●イブニング・アカデミー

コース1：中條武志氏（中央大学）

「TQMの基本の理解と企業における実践」

コース2：立林和夫氏

（元・富士ゼロックス）

「いまさら聞けない『パラメータ設計・MTシステムの初歩の理論と進め方』」

コース3：大藤 正氏（玉川大学）

兼子 毅氏（東京都市大学）

「初めてのプロジェクト・リーダーのための、『部下のやる気』を引き出し、一丸となって問題に立ち向かう『チーム』を作り上げる方法

日 時：2014年10月～各コース月1回開催

会 場：コース毎による

参加費：6,480円（会員）

※全6回分前納

申込資格：原則として全6回同一人物が参加すること

お試し参加：非会員は原則として初回に限り

「お試し参加」を認める。詳細は事務局にお問い合わせください。

申込方法：本部事務局宛E-mailにてお申し込みください。

詳 細：<http://www.jsqc.org/evening.html>

●第91回クオリティトーク（本部）

テーマ：安全文化とレジリエンスの関係について考える

ゲスト：倉田 聡氏（原子力安全推進協会）

日 時：2014年10月29日(水)18:00～20:30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名

参加費：会員3,500円 非会員4,500円

準会員・一般学生2,500円

（含軽食・当日払い）

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第376回事業所見学会（本部）

テーマ：KYBにおける油圧技術の歴史とモノづくり

日 時：2014年11月5日(水)午後

見学先：KYB 相模工場

定 員：30名

参加費：会 員3,000円 非会員4,000円

準会員2,000円一般学生2,500円

※当日払い

申込締切：10月31日(金)

申込方法：本部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第15回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

日 時：2014年12月23日(火)10:00～17:30

第44年度会費請求のお知らせ

第44年度（2014年10月1日～2015年9月30日）会費請求書を郵送いたします。

郵便局自動引き落としを利用されている方には請求書を送付いたしておりません。10月27日に引き落としとなりますので、郵便口座の残高をご確認ください。

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎
134講義室

定 員：200名

参加費：2,000円 ※当日払い

申込締切：12月15日(月)

プログラム：

「原子力発電所の安全確保における品質保証の役割」

宮越直樹氏（三菱重工業）

「運輸安全マネジメント制度と事業者による安全管理」

岡本満喜子氏（長岡技術科学大学）

「医療分野における規制・第三者評価とプロセス改善活動」

永井庸次氏（ひたちなか総合病院）

「製品事故に対する行政の対応と事業者によるリコール」

鈴木和幸氏（電気通信大学）

「ルール不遵守に起因する事故を防ぐ上での行政による規制と事業者による自律的マネジメントのあり方」

首藤由紀氏（社会安全研究所）

「安全・安心な社会の確立に向けた行政、事業者、社会の役割」

木村 浩氏（パブリック・アウトリーチ）

パネルディスカッション

コーディネータ：

伊藤 誠氏（筑波大学）

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h261223>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

事務局からのお知らせ

会費再請求書送付に関する手数料について

かねてより学会経理健全化のため支出項目見直しなどを進めてまいりましたが、次年度より会費請求書の再発行に際し、手数料をいただくこととなりました。

本学会では毎年9月に会費請求書を発送していますが、期限までに入金を確認できない場合12月頃に再請求書を送付しています。今後、再請求書の印刷・郵送に関する費用として、再請求書送付1回毎に200円（税込）の手数料を加算してご請求いたします。会員各位にご理解いただくとともに期限内入金をお願いいたします。

第44回通常総会開催

日本品質管理学会第44回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成26年11月29日(土)9:30～10:40

場 所：東京都市大学 世田谷キャンパス（東京・世田谷）